

令和元年第15回教育委員会定例会

開会年月日 令和元年8月2日(金)
場 所 教育委員会室

出席者 教育委員会 教育長 河 口 浩
同 委 員 新 井 良 保
同 委 員 坂 口 節 子
同 委 員 高 柳 誠
同 委 員 伊 神 泉

議 題

1 議案

- (1) 議案第25号 練馬区立小学校教科用図書の採択について
- (2) 議案第26号 練馬区立中学校教科用図書の採択について

2 陳情

- (1) 平成19年陳情第4号 「八の釜の湧き水」と憩いの森の消失に関する陳情について
〔継続審議〕
- (2) 平成23年陳情第4号 災害時と放射能対策に関する陳情書〔継続審議〕
- (3) 平成23年陳情第19号 都市計画道路に伴い大泉第二中学校が直面している問題に関する
陳情書〔継続審議〕
- (4) 平成23年陳情第20号 子ども達を放射能汚染、特に内部被曝から守るための陳情書
〔継続審議〕
- (5) 平成25年陳情第8号 「大泉第二中学校を分断する道路計画(素案)の撤回・見直しを求
める」陳情書〔継続審議〕
- (6) 平成25年陳情第9号 都市計画道路補助135号線の整備計画(素案)の抜本的見直しを
求める陳情〔継続審議〕
- (7) 平成26年陳情第1号 都市計画道路補助第135号線整備計画(素案)の撤回を求める陳
情〔継続審議〕
- (8) 平成26年陳情第2号 特別支援学級での肢体不自由児への対応を求めることについて
〔継続審議〕
- (9) 平成27年陳情第6号 情緒障害等通級指導学級での指導の存続と情緒障害児教育の充実
・発展を求める陳情〔継続審議〕
- (10) 平成27年陳情第9号 区立小中学校への「学校司書」配置を求める陳情書〔継続審議〕
- (11) 平成28年陳情第3号 就学援助の入学準備金3月支給など、制度拡充に関する陳情
〔継続審議〕
- (12) 令和元年陳情第1号 教科書採択にあたって教職員の意見を尊重し、採択に反映させる

ことを求める陳情書

- (13) 令和元年陳情第2号 区立小学校の教科書採択に関する陳情書

3 協議

- (1) 旭丘・小竹地区における新たな小中一貫教育校の設置について〔継続審議〕
(2) 令和元年度教育に関する事務の管理等に係る点検・評価について〔継続審議〕

5 報告

- (1) 教育長報告

① その他

i その他

開 会 午前 10時00分
閉 会 午前 12時47分

会議に出席した者の職・氏名

教育振興部長	木 村 勝 巳
こども家庭部長	小 暮 文 夫
教育振興部教育総務課長	櫻 井 和 之
同 教育施策課長	吹 野 浩 一
同 学務課長	清 水 輝 一
同 学校施設課長	竹 内 康 雄
同 保健給食課長	小 林 敏 行
同 教育指導課長	谷 口 雄 磨
同 学校教育支援センター所長	小 野 弥 生
同 光が丘図書館長	清 水 優 子
こども家庭部子育て支援課長	山 根 由 美 子
同 こども施策企画課長	太 田 喜 子
同 保育課長	宮 原 正 量
同 保育計画調整課長	大 窪 達 也
同 青少年課長	石 原 清 年
同 練馬子ども家庭支援センター所長	武 熊 雅 郎

教育長

ただいまから、令和元年第15回教育委員会定例会を開催する。

案件に入る前に、本日の審議関係について説明させていただく。本日の会議については、傍聴を希望される方が多数いたため、抽選を行った。抽選の結果、本日は18名の方がこの教育委員会室において傍聴されている。また、抽選に当たらなかった方の控室にも、この会議室での審議の様子が伝わるように音声を送している。適切な審議環境

を守るため、会場を広くすることはできないが、より多くの方に教科書採択の様子を伝えるため、控室での音声放送という形で設定をさせていただいた。各委員に異存がなければ、このまま進めさせていただきたいと思うが、いかがか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、このまま審議を進めてまいりたいと思う。

本日の案件は、議案2件、陳情13件、協議2件である。

まず、本日の会議の進め方についてお諮りする。議案第25号 練馬区立小学校教科用図書の採択について、および議案第26号 練馬区立中学校教科用図書の採択については、陳情の後に審議を行いたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、そのようにさせていただく。

- (1) 平成19年陳情第4号 「八の釜の湧き水」と憩いの森の消失に関する陳情について
〔継続審議〕
- (2) 平成23年陳情第4号 災害時と放射能対策に関する陳情書〔継続審議〕
- (3) 平成23年陳情第19号 都市計画道路に伴い大泉第二中学校が直面している問題に関する陳情書〔継続審議〕
- (4) 平成23年陳情第20号 子ども達を放射能汚染、特に内部被曝から守るための陳情書
〔継続審議〕
- (5) 平成25年陳情第8号 「大泉第二中学校を分断する道路計画（素案）の撤回・見直しを求める」陳情書〔継続審議〕
- (6) 平成25年陳情第9号 都市計画道路補助135号線の整備計画（素案）の抜本的見直しを求める陳情〔継続審議〕
- (7) 平成26年陳情第1号 都市計画道路補助第135号線整備計画（素案）の撤回を求める陳情〔継続審議〕
- (8) 平成26年陳情第2号 特別支援学級での肢体不自由児への対応を求めることについて
〔継続審議〕
- (9) 平成27年陳情第6号 情緒障害等通級指導学級での指導の存続と情緒障害児教育の充実・発展を求める陳情〔継続審議〕
- (10) 平成27年陳情第9号 区立小中学校への「学校司書」配置を求める陳情書〔継続審議〕
- (11) 平成28年陳情第3号 就学援助の入学準備金3月支給など、制度拡充に関する陳情
〔継続審議〕

教育長

それでは初めに、陳情案件である。継続審議中の陳情のうち、(1)から(11)までの11件については、事務局より新たに報告される事項や大きな状況の変化はないと聞いている。したがって、本日は全て継続としたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、継続とする。

- (12) 令和元年陳情第1号 教科書採択にあたって教職員の意見を尊重し、採択に反映させることを求める陳情書
- (13) 令和元年陳情第2号 区立小学校の教科書採択に関する陳情書

教育長

令和元年陳情第1号 教科書採択にあたって教職員の意見を尊重し、採択に反映させることを求める陳情書、令和元年陳情第2号 区立小学校の教科書採択に関する陳情書。これらの陳情については、本日新たに提出されたものである。事務局より読み上げをお願いする。

事務局

それでは、陳情の要旨を読み上げさせていただきます。

はじめに、令和元年陳情第1号 教科書採択にあたって教職員の意見を尊重し、採択に反映させることを求める陳情書。

陳情提出者は記載のとおりである。

要旨。

教科書採択にあたっては、教職員の意見を尊重し、採択に反映させること。

- 1、教科書採択の方式を、以前の各学校から研究報告書が出せる方式に戻し、その記載内容についても以前行われていた通りとし、その扱いについては「正式な資料」として位置づけ、教育委員に配布すること。
- 2、調査委員の選出を民主的に行い、恣意的に選出されることがないようにすること。また委員の所属、氏名などを公表すること。
- 3、教員が教科書展示の場所へ赴くことについて、その時間を保障し、全ての学校から出張させるように働きかけるなど、教科書を検討するための条件を改善すること。

続いて、令和元年陳情第2号 区立小学校の教科書採択に関する陳情書。

陳情提出者は記載のとおりである。

要旨。

- 1、教科書の採択にあたっては、学校現場の教員や区民が意見を表明できるよう教科

書の展示期間等を十分確保してください。区立小学校の教員が意見を表明できるよう必要な態勢をとってください。また、『ねりま区報』には区民が教科書採択に際して陳情書を提出できる旨、明記してください。

2、別冊が附属する小学校道徳科（特別の教科 道徳）の教科書は、採択しないでください。

3、児童に自己評価を求めている小学校道徳科教科書は、採択しないでください。なお評価に際しては、記述式の個人内評価をせずに、学習活動の記述にとどめてください。

以上である。

教育長

本日は、教科書採択に関する陳情であるこの2件について、審査を行い、結論を出したいと考えている。各陳情については複数の項目があるが、全て教科書採択に関するものであるので、項目ごとではなく一体的に意見を伺い、採択または不採択の判断についても、項目ごとではなく総合的に判断をする一括審査としたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、そのようにさせていただく。

陳情の審査に入る。

令和元年陳情第1号 教科書採択にあたって教職員の意見を尊重し、採択に反映させることを求める陳情書。この陳情第1号について、各委員のご意見を伺う。

この間、私が再三にわたって申し上げてきたことであるが、教科書採択は教育委員会の権限と責任において、総合的な視点から公正中立な立場で採択を行っているものである。そのことを改めて申し上げた上で、各委員のご意見を伺いたいと思う。いかがか。

高柳委員

ここに出された陳情の内容について、よく読ませていただき、検討させていただいた。教員の意見を十分に尊重し反映することとあるが、各調査委員会、それから教科書の展示会等で先生方からいろいろなご意見をいただいている。それについて、全て私たちの手元に資料として届き、全て読ませていただいている。そういう意味では、先生方のご意見は十分尊重し、参考にさせていただいており、この陳情について採択しなくとも十分反映されていると考える。

坂口委員

同じ意見だが、調査委員会の答申書をいただき、私たちはそれを熟読した。現場の教員からのご意見も幾つもあり、それも全て目を通して。現場の先生方の声を尊重してほしいとの陳情には応えていると思う。私は採択しなくともいいと考える。

教育長

ほかにいかがか。よろしいか。

それでは、ここでまとめたいと思う。この陳情については、教育委員会として既に取り組んでいる項目も含まれているが、教科書採択の方式を各学校から研究報告書が出せる方式に戻すなど、教育委員会として受け入れることのできない内容も含まれている。このため、令和元年陳情第1号については、不採択としたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、令和元年陳情第1号は不採択とする。

次の陳情案件である。令和元年陳情第2号 区立小学校の教科書採択に関する陳情書。この陳情第2号について、各委員のご意見、ご質問を伺う。いかがか。

高柳委員

1の「小学校の教員が意見を表明できるよう必要な態勢をとってください」ということについては、先ほど申し上げたように、私たちも、いろいろなところからの意見を十分尊重し参考とさせていただいているので、この趣旨は生かされていると思う。また、3の「自己評価を求めている小学校道徳科教科書は、採択しないでください」ということについては、そういう考えもあることはわかるが、それぞれの教科書会社の考えもあってつくられているものだと思う。また、自己評価を求める、求めないというのは、道徳の教科書の採択にそれほど影響はないと思っているので、この陳情については採択する必要はないと私は考える。

伊神委員

1番に「教員や区民が意見を表明できるよう教科書の展示期間等を十分確保してください」とあるが、練馬区の図書館や学校教育支援センターで日にちを区切って、1カ月近く順番に、見る機会、意見を提出する機会を設けてきたと思う。区民の方や教員の方が意見を言いたい、表明したいというのであれば、やはり自分の近場のところに出向いていくというのが本来だと私は思っている。展示期間は十分に確保していると思うので、このことは採択できないと思っている。

新井委員

今2人の委員がおっしゃった内容とほぼ同じである。現在行われている教科書採択については、いろいろな経過を経て民主的、公平に行われていると考えているので、不採択でいいと思う。

坂口委員

2番について申し上げます。全て、文部科学省で検定を受けている教科書であり、私は、別冊の有る・無しにかかわらず公平に審査した。別冊が附属する小学校道徳科の教科書を特別に採択しないということは、考えられないと思う。

教育長

皆さんからご意見をいただいたので、ここでまとめたいと思う。よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

この陳情については、教育委員会として既に取り組んでいる項目も含まれているが、今委員からもあったように、特定の教科書を採択しないでほしいなど、受け入れることのできない内容も含まれている。このため、令和元年陳情第2号については不採択としたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、令和元年陳情第2号は不採択とする。

それでは、次に議案の審議に入る。

ここで、審議の順番についてお諮りする。本日は、小学校および中学校教科用図書の採択について審議する。中学校教科用図書については、令和3年度からの新学習指導要領の全面実施に合わせて改訂される予定であるため、今回は令和2年度の1年間のみ使用する教科用図書を採択する。いずれの教科書会社からも検定の申請がなく、平成27年度採択時の教科用図書と内容が同一であることから、先に中学校教科用図書を採択してまいりたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、そのようにさせていただく。

(2) 議案第26号 練馬区立中学校教科用図書の採択について

教育長

それでは、議案第26号 練馬区立中学校教科用図書の採択について、審議を行う。道徳については、平成30年第15回教育委員会において、令和元年度から2年度ま

で使用する教科用図書を採択しているので、本日は、道徳を除く15種目の採択を行う。

この教科用図書の採択は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第21条第6号の規定により、教育委員会の職務権限となっている。採択にあたって、教育委員会では4月に中学校教科書協議会に諮問を行い、7月18日開催の第14回定例会において、同協議会から答申を受けた。

先ほどご案内したとおり、現在使用している中学校教科用図書については、令和3年度からの新学習指導要領の全面実施に合わせて改訂される予定である。そのため、今回の採択にあたっては、いずれの教科書会社からも検定の申請がなく、平成27年度採択時点の教科用図書と内容が同一になっている。

そこで本日は、平成27年度に採択した現行の教科用図書を基本に、継続して使用することでよいかという視点で審議をし、採択したいと思うがよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、そのようにさせていただく。

審議に入る前に、確認のため、平成27年度に採択した教科用図書の発行者を事務局に読み上げていただきたいと思う。また、現在使用している教科用図書について、各学校から特に意見や要望が出されていないかどうか、あわせてお聞きする。

教育指導課長

資料2をご覧いただきたい。中学校教科用図書の全15種目の一覧と、裏面に発行者の一覧を記載している。一覧のうち、アスタリスクでお示ししているものが平成27年度採択時の教科用図書にあたる。

国語、三省堂。書写、光村図書。社会（地理的分野）、帝国書院。社会（歴史的分野）、教育出版。社会（公民的分野）、東京書籍。地図、帝国書院。数学、啓林館。理科、東京書籍。音楽（一般）、教育芸術社。音楽（器楽合奏）、教育出版。美術、日本文教出版。保健体育、大日本図書。技術・家庭（技術分野）、開隆堂。技術・家庭（家庭分野）、開隆堂。英語、東京書籍。以上である。

また、学校からの意見、要望等は、現在のところない。

教育長

今、教育指導課長から平成27年度の採択本について説明があった。また、学校等から意見、要望等は特に出されていないということであった。

教科書協議会の答申において、現行の教科用図書に関する問題点は指摘されておらず、学校からの意見、要望等もないということであった。私としては、令和2年度についても、現行の教科用図書を使用するという点でよいのではないかと考えている。各委員より何かご意見はあるか。よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、まとめたいと思う。

議案第26号については、現行の教科用図書を採択するということによろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、議案第26号については、現行の教科用図書を採択する。なお、新学習指導要領に基づく中学校教科用図書を令和2年度に採択する予定であることを申し添える。

(1) 議案第25号 練馬区立小学校教科用図書の採択について

教育長

次に、議案第25号 練馬区立小学校教科用図書の採択について、審議を行う。

来年度から使用する小学校教科用図書について、4月に小学校教科書協議会に諮問を行い、前回の定例会において同協議会から答申を受けている。また、教育委員会では、各委員がそれぞれ教科用図書の調査研究を行ってきた。

そこで、本日は各委員から種目ごとに推薦する教科用図書の発行者名を発言していただき、審議していきたいと思う。

ここで、種目ごとの発言順序についてお諮りする。本日は、全部で13種目の教科用図書を採択する。例えば、最初の種目である国語については、新井委員、坂口委員、伊神委員、高柳委員の順に推薦する発行者について発言を行い、全員の意見を確認したいと思う。その後、候補に挙げた発行者を一度整理した上で、意見が大きく分かれるなどした場合には、必要に応じて改めて皆さんの意見を伺うこととする。その際は、先ほどとは逆の順で発言を行っていただき、最終的に決定していきたいと思う。そのような形で進めたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、そのように進めさせていただく。

初めに、国語である。新井委員から発言をお願いします。なお、教科書採択全般にわたるご意見がある場合は、この国語の中であわせて発言していただいても結構である。

それでは、よろしくをお願いします。

新井委員

それでは、全般にわたる意見について少し話し、その後、国語の採択の理由について話をさせていただきます。

本日の採択に向けて、たくさんのご意見を学ばせていただいた。全般にわたる私の教科書採択の基本的な心構えについて、要約した3点をお話させていただきます。

1番目、児童の心を揺さぶる教科書採択。やはりハート、心を揺さぶる教科書採択でありたい。2番目として、児童の幸福感達成のための教科書採択、ハピネスである。最後に3番目として、児童の学びを深めるための教科書採択、ラーニングである。私は、ハート、ハピネス、ラーニング、この3つの心構えで、全教科にわたって教科書採択をやらせていただいた。

では、国語について、話をさせていただきます。私は、1番が光村図書で、2番が東京書籍である。

東京書籍の特徴は、学習の見通しと読書活動の重要性についての編集づくりである。年度初めに目標を持つことが、学習の見通しを持つことにつながる。また、読書活動の単元の配置に工夫が見られる。「図書館へ行こう」や「本は友達」はとてもわかりやすい。「言葉の力」、「つかむ」では見通しを持って学習することの大切さを教えている。

光村図書は、内容別のバランスがとれている。そして、児童の学びを支える視点でつくられている。国語が他教科の基盤として教えなければならない点について、学習が進められるように編集されている。この点を踏まえて、私が光村図書を推薦する理由について、述べていく。

まず、扉の「国語の学びを見わたそう」では、何を学ぶのか、学習の進め方についてわかりやすく示されている。そして、「この本で学習するみなさんへ」の言葉で、子供がこの教科書で何を学ぶのかがはっきりとわかる。学びの内容が、イラストと平易な要約された言葉で表現されている。言語活動の「読む、話す、聞く、書く」の各教材がバランスよく配置されている。それぞれの教材が子供にとって興味、関心が持てる、親しみやすい題材である。説明文、物語文などさまざまな文章に接することができ、味わうことができる。これらの作品を通して思考力、表現力、判断力を身につけることができる。また、読書活動を促す上で、各学年の章の終わりに関連の書籍が多数紹介されていて、子供たちが読書の世界に入りやすい編集となっている。あわせて、各学年の発達段階に応じて、図書館の仕組みや使い方、本の配列などもわかりやすく説明されている。巻末の資料で、特に特筆すべきは、「言葉の宝箱」である。これまでの学習の振り返り、まとめの資料としてよく工夫されている。これまでに習った漢字、この教科書で習う漢字など、まとめとして活用できる。「学習を広げよう」は、学習内容がよく理解でき、わかりやすく要約されている。本の紹介も充実しており、読書活動がさらに促進されると考える。「たいせつのまとめ」は、子供が何を学んでいるのか、大切な内容がまとめられている。子供にとって、何を学んでいるのかが、イラストとキーワードで楽しく、わかりやすく編集されている。

最後になるが、点字と指文字に関するページが5年生の教科書にあった。実際に触れてわかる凸凹のある点字が教科書に印刷されているのは、光村図書だけである。点字については他社でも紹介されているが、視覚障害の特別な支援を必要とする子供を理解す

る上で、貴重な内容と考える。感動した。

以上の総合的な理由から、光村図書を第1、東京書籍を第2とした。

坂口委員

教科書改訂にあたっての、私の思いを先に申し上げる。

4年おきに子供たちの教科書を改訂する必要があるのか。今回各社が心血を注いで編集され、発行された各教科書を一つ一つ手にし、その困難かつ精魂込めた努力に敬意を払って拝見した。次第にわかってきた。教科書に盛り込みたい内容は、常に流動的な変化を遂げている現代社会に対して、子供たちに伝えていきたいことは増える一方で、決してこれは不要と減じていくことができない。その中で、新学習指導要領にある主体的に生きる力を育むために、その概要を重んじながら、大幅な取舍選択が各社ごとに繰り広げられて編集されているだろうと思う。教科書に掲載してあるということは特別なことではなく、社会的なスタンダード、標準を得たということで、誰にも認められる事柄だからこそだと、その選択を重く受けとめた。特に、社会については、歴史、国際政治の仕組み、自然災害、暮らし、あらゆる方向に目を向けなければならない。そこに各社編集の苦勞と主張が込められているわけである。

私はその中で、次世代を担う子供たちが正しく学び取り、よく理解した上で成長してほしいという視点を考えた。十数年前には想像もつかなかったITの発達、AIが隆盛する問題解決法は、人の思いを軽々と超え、人間が使われる存在になりかねない。未来は、私たちの知恵をはるかに超えていきそうである。そのような激動の社会状況にあるのが今の子供たちである。教科書は何を伝えていけばいいのか。基礎的な学習を飛び越えては、プログラミングなどITの理解に困難さを感じる。どうして算数が大切なのか、それぞれのキャリアを持つ大人たちの声を集めた内容には共感できた。もう一つ、日本では避けて通れない自然災害に対する心構えがある。体験から学ぶことも大切である。東北大震災の復興、大津波による原子力発電所破壊後のクリーンで安全な事業を取り戻す取組も、目に見える形で学んでいくべき重要課題だと思う。また、障害者差別解消法も施行され、あらゆる差別、権利擁護に敏感にならねばならない。かつては見逃されていた、さまざまな場面のハラスメントも人として受けとめなければならない決まり事となった。その一つに、性差別、性的マイノリティーへの配慮ある行動、表現が、教科書に扱われているかなどの視点がある。持続可能な社会、サステナブルについても、未来の子供たちのために今から考えていかねばならない課題だと言える。世界中で便利だから、安価で手軽だからとつくり続けた結果、地球上の大海まで汚染が進んだ微小プラスチック問題などは、まだ取り上げている場面は少ないようであるが、いずれ教科書で学んでいくべき事柄であろう。

このような、常に流動変化し、生産性だけでなく、ひずみから生まれる課題がある激動の時代の真ただ中で、それでも、教科書を初めて手にし、心弾ませて学校生活を楽しみにしている1年生から、学びを通して学力を蓄え、友情を育て、未来への生き方を求めていこうとする思春期前の6年生までになふさわしい、学びの伴走者である教科書を選んでいこうと思う。

国語について申し上げます。

最初に、東京書籍を選んだ。1年生にとって好奇心あふれる導入が、とてもうまくできている。「あいうえお」などの言葉に触れるのは、かなりたって20ページあたりからで、見やすく、親しみの持てる、子供たちの関心を引く配置に共感できた。6年生の教科書、「海のいのち」、「ヒロシマのうた」、日野原重明さんの「君たちに伝えたいこと」、谷川俊太郎の「春に」という詩は、どれも別格の教材設定であった。上橋菜穂子さんの文章「本がいざなう、もう一つの世界へ」の中に、「本はあなたの背中につばさをつけてくれる」とある。6年生のための選書を多くのページにわたって紹介していること、言葉の力を育むために、「風切るつばさ」など思わず読み進めたいくなる教材の選び方も良いと思った。ほかに「町の幸福論」では、益子町や、島根県の離島、海士町の状況を取り上げている。また、漢文、万葉集、平仮名の変化などの言葉が記載されていることに安定感を感じた。

次に、光村図書を選んだ。挨拶の言葉を1年生で大変丁寧に紹介している。絵本への導入も、興味を持って手にするようになっている。初めて文字を書くというのは、25ページから始まっている。5年生に点字の紹介がある。各単元に本の紹介があり、子供たちの読書活動につながる導入として、うまくできていると思う。

伊神委員

私が、教科書を選ぶにあたり踏まえたことを述べさせていただく。子供たちが教科書を開いたとき、思わずじっと見てしまう、何となく興味が湧く教科書。家で宿題をやっているとき、思わず読み込んでしまう意欲湧く教科書。教科書で情報が得られるような親近さを感じる教科書。これは多くの保護者が願っているものだと思っている。最終的に、深い学びという言葉があてはまるような教科書を選んだ。

国語について、私は光村図書を1番に推薦する。東京書籍も大変よく、正直迷った。光村図書は、読みやすい、見やすい点で子供たちにとって集中できる教科書だと思う。国語での読み取る力につながる。「学習」というページが設けられ、「見通しをもとう」から「ふりかえろう」まで、子供たちが今何を学ぶのかを示しており、深い学びにつながっていて、大変よいと感じる。その中の「ひろげよう」では、思ったことを伝えよう、友達の経験を聞いて感想を伝えようといったことが示されており、言語能力の確実な育成につながっていく学習場面が想像される。單元ごとに、テーマに合った数多くの図書が紹介されていることも、子供たちの読書活動にプラスになる。学び方が明確な教科書になっていると思う。季節の言葉の学びや、物語の絵や写真のページもとてもよく、子供たちが心で感じたり想像したりできる。「読む、書く、話す、聞く」の国語の基本に、私の個人的な言葉にはなるが、「感じる」という言葉を入れてもよい教科書だと思う。

東京書籍は、目次の工夫がたくさんあり、子供たちの学習意欲を誘う。單元ごとの「言葉の力」は、より一層の深い学びにつながるであろう。言葉、漢字など、授業で学んだことを復習につなげることもできる。図書の紹介も光村図書に勝るとも劣らない内容である。「読む、書く、話す・聞く」の基本的学びもしっかり示されており、とてもよかった。

高柳委員

はじめに、全般的なことをお話しさせていただく。

まず1点目である。各教科のどの教科書も小学校教育の目標が達成できるように、何ができるようになるか、何を学ぶか、どのように学ぶか、何が身についたかという視点を大切にして、学習内容や学習過程、いろいろな資料を記述、構成をしている。そのご尽力、ご努力に深く敬意を表する。

2点目である。児童に、おもしろそうだな、どうなっているのだろう、もっと調べてみたい、考えてみたいというような、学習への興味や関心を強く持たせ、学習意欲を持続できるようにして、知識や技能、思考力や表現力、学びに向かう力や人間性の育成に資することができるよう、学習内容や資料を創意工夫している。

3点目である。児童が学習課題や学習問題を自分のものとして持ち、問題解決的な学習過程を通して、主体的に学び、問題をよりよく解決できるような力を養うように工夫されている。私は、今述べた観点および、各教科の特性を考慮した観点に基づいて、教科用図書の調査研究をした。

つぎに、国語についてである。私は、第1に光村図書、第2に教育出版を推薦したいと思う。

その理由として、特に次の4つの観点を重視した。1点目、児童の発達段階を考慮して、国語への興味・関心や学習意欲を引き出すことができるような教材が多く掲載されている。2点目、児童が学習の目的や必要性を意識して、学習計画や学習課題を立て、主体的に学習できるように学習過程が明確化されている。3点目、児童の言語活動や読書活動の充実を図り、日常生活に必要な国語について理解し、使うことができるようにするために適している。4点目、児童が互いの知識や考えを伝え合ったり議論したりして、思考力や表現力等を養うことができるように工夫されている。以上の観点で調査研究した結果、光村図書、教育出版を推薦する。

教育長

委員の皆様のご意見をお聞きしたので、私も意見を申し上げさせていただく。

今回の教科書採択にあたっては、何よりも新しい学習指導要領、これをいかに体現しているかという観点で教科書を読ませていただいた。

国語については、私も1番に光村図書がよいと思っている。各単元において、「読む、話す、聞く、書く」という内容別の学習がバランス良く配置されていて、説明的文書、文学的文書、詩歌の取り扱いの数は他社に比べて最も多かったと思う。また、収録されている教材は、いわゆる定番の教材が多く、教員がこれまで蓄積してきた教材研究を活用しやすいという面もある。また、読書活動や情報の取り扱いについても、繰り返し、繰り返し取り上げている。これらの面から、私は光村図書を第1に挙げた。

2番目としては、東京書籍がよいと考えた。

各委員の国語についての意見を伺ったところ、光村図書を1位に挙げた委員が4人、東京書籍を1位に挙げた委員は坂口委員1名となった。ただ、坂口委員も2番目に光村図書を挙げている。この結果を見れば、光村図書が一番望ましいのではないかと思うが、坂口委員、いかがか。

坂口委員

私も光村図書の良さはよくわかっている。東京書籍は本当にいいバランスだと思ったが、皆さんのご意見に従って光村図書でよい。

教育長

それでは、国語については光村図書を推す方が多かったので、光村図書を採択するというところでよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、国語については、光村図書を採択する。
次に、書写である。坂口委員から願います。

坂口委員

書写について、私は東京書籍を選んだ。

1年生に対しては、姿勢の話、鉛筆の持ち方が丁寧に書かれている。非常に丁寧に字を書くことのイロハのイについて書かれており、私自身も参考になったぐらいである。普通は書く動作を「はらい」や「はねる」、「とめ」といった記載にするのだが、東京書籍の場合、低学年に対しては「ぴたっ」、「ぐーっ」や「とん」、「ぴたっ」などと書かれていて、特に小さい子に対してわかりやすい、丁寧さがあると思った。どの教科書もそういうことができているが、特別、東京書籍の優しい指導のやり方がよいと思った。

伊神委員

私は光村図書を1番、東京書籍を2番に選んだ。理由について2社を比べながら、お話をさせていただく。

1年生のひらがなの書き方では、両社、書く順序の色分けや鉛筆の使い方、「はらい」や「とめ」がわかりやすく丁寧に書かれている。東京書籍の「書写のかぎ」は、子供が興味を持って、何をするのか、何に気をつけて学習するのかが示されており、意欲につながると思う。

3年生からの毛筆では、光村図書は、穂先に注意しながらの筆遣いが丁寧に示されており、とてもわかりやすい。「トン、スー、トン」という音での表現も一緒に載っている。そして、「たしかめようシール」は、自分が書いた字を改められるような工夫がされている。毛筆では腕の使い方大切な一つとなる。よい学びが載っていると思う。

東京書籍も穂先を意識させる内容になっている。「毛筆の学習を始めよう」では、道具の取り扱い方、片づけ方が丁寧に示されている。毛筆は道具を丁寧に扱うことでよい字が書ける。しまい方次第で、筆がぼろぼろになってしまったり、かびてしまったりなど、書道をやっていない子供たちには想像がつかないだろう。言葉で教えるのが難しいしまい方を写真や絵で丁寧に示しているのは東京書籍であった。

光村図書は、ほかの教科の学習に生かせる工夫をしていた。5年生の「文字の配列」はとても見やすく、書くという学習をととても意識している。余計なものがなく、子供たちに受け入れやすい内容になっている。東京書籍は少し情報が多く、「生活に広げよう」では書く前にしっかり読み込ませるところからの勉強になってしまい、子供たちの書くという集中に影響するのではないかと思うほどである。また、光村図書の各学年のまとめは、文字の書き方やつながり方が載っており、学習してきたことをしっかりと教える内容となっている。

総合的に字を書く、配列、組み立て、形を教えている光村図書を1番に選んだ。

高柳委員

書写については、光村図書と日本文教出版を推薦する。

その理由である。1点目に、児童が適切に運筆できる能力を育成できるように、始筆、送筆、終筆の学習ポイントがわかりやすく記述されている。2点目に、学習ごとの学習課題や進め方が明確に提示されていて、児童が主体的に課題解決的に学習できるように工夫されている。3点目、書く姿勢、鉛筆や筆の持ち方、用具の準備、片付けの仕方などの資料がわかりやすく、児童の学習に活用しやすいように記述、構成されている。以上の理由から、光村図書と日本文教出版を推薦する。

新井委員

書写については、第1に光村図書、第2に東京書籍を推薦する。

まず、東京書籍の特徴であるが、学習の狙いがわかりやすく、左手、右手の位置や、書き順が色分けされていてわかりやすい。毛筆の後片づけ、用具の置き方、手紙、原稿用紙の書き方、字形の解説など、とても丁寧である。紙面が統一されてわかりやすい。また、基本姿勢を教える際の擬音指導、「ぴん、ぺた、とん」は、児童にととてもわかりやすい。特別支援の発達障害等の子供たちにとっても、とてもよいと思う。水書用紙は、主体的な学習を促す方法として効果的である。

次に、光村図書を第1に推薦した理由である。まず、何といたっても書写の時間を楽しく、親しめる取組の工夫として、「トン、スー、トン」という擬音を通して書写の基本である始筆、送筆、終筆を学ばせている点である。この取組は、特別支援の子供にとっても効果的であると考え。次に、低学年の発達段階に配慮した手指を中心とした「しよしゃたいそう」は、授業導入の手立てとして、とてもわかりやすい。また、用具の準備、姿勢、筆の持ち方などが丁寧に説明されている。文字の軸の傾きが重要な漢字の点、角についても、穂先を通してわかりやすく書かれている。小筆を使って名前を書く練習も配慮されている。また、キーワードの「たいせつ」でポイントを確認し、「ふり返ろう」で自己評価を促す編集となっている。「とめ」、「はね」、「はらい」のイラストの工夫も丁寧である。他教科、特に国語との関連について意識させる内容となっている。また、水書用紙も主体的な学習を促す配慮として、効果的であると考え。巻末の資料も充実している。「たいせつ」のまとめ、各学年で学習した漢字、平仮名、片仮名、書き初めなどである。以上、総合的な観点から第1に光村図書を推薦する。

教育長

各委員のご意見をそれぞれお聞きした。

私も光村図書を推薦する。低学年の学習では書写の体操が掲載されており、楽しく授業の導入ができるようになってきていること。「トン、スー、トン」と筆の初め、筆の送り、筆の終わりを体感的に学習できるようになっていること。全ての単元にQRコードが印刷されていて、書き順、運筆、筆圧など、すぐに活用できるようになっていること。また、国語の教科書と関連した単元もあるということ等、総合的に見て光村図書がよいと思った。

まとめると、東京書籍が3票、光村図書が4票、日本文教出版が1票ということになる。光村図書が多いわけであるが、坂口委員が東京書籍ということであった。坂口委員、ご意見があればお聞かせいただければと思う。

坂口委員

申し訳ない。先ほど申し上げなかったが、私も2番目に光村図書を推薦しているので追加させていただきたい。

教育長

そうすると、全ての委員が光村図書を推薦されているので、書写については光村図書を採択したいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、書写については、光村図書を採択する。
次に、社会である。伊神委員から願います。

伊神委員

私は、教育出版と東京書籍の2社を選んだ。

東京書籍は、地図の見方や記号の表し方がとても親切で、3年生から使用する地図帳としては、とてもよい学習内容になっていると思う。記号も大きく、太く表されていて、たくさん載っているものよりわかりやすく、3年生から学ぶ内容としては相応かと思った。4年生の自然災害では、どちらの教科書も、日ごろから目にしなければならぬ写真や、ハザードマップが載っており、特に近年の災害の学習が際立っていた。ハザードマップという言葉が日常で使われるようになった昨今では、子供たちが日常の備えや心構えを学習するのにとてもよい機会だと思う。その中で、東京書籍は地域に寄り添った学習ができ、避難方法や活動へ導いている。2016年の熊本地震について掲載されているが、少なからずテレビで見た記憶があるのではないだろうか。歴史にも触れるよう、幅広く教えている。

教育出版は、2年生までに学習してきた生活科と社会科との関連性を示しており、3

年生から学ぶ社会科に対する、子供たちの不安や戸惑いが軽減されると思う。「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「つなげる」は、子供たちが何をするのか、今何をやっているのか、どうすればよいのかを示している。「この時間の問い」から「次につなげよう」が見開きでわかりやすく、家庭での予習にもつながる内容になっている。6年生の歴史では、年表が活躍すると思う。教育出版は、絵や写真の使い方、バランスがよく、とても見やすい、楽しめるものになっている。日本列島に歴史上の建物が載っていることも、よりよい学習の一つになる。

本当に甲乙つけがたいが、私は、教育出版を1番、東京書籍を2番に選びたいと思う。先程も言ったが、教育出版は、見開きページで、授業で何をするのが明確に示されていて、学習意欲につながるという点で1番に選んだ。

高柳委員

私も、教育出版と東京書籍を推薦する。

その推薦理由の1つ目である。社会生活に関する理解や社会的事象について調べ、まとめる技能や、社会事象について主体的に問題解決をする態度を養うことが、社会科の学習においてはとても重要な目標だと考えている。そのため、社会科の教科書は、児童が社会生活や社会的事象について理解し、調べてまとめることができるように、教材や学習のポイントなどが的確に表記、構成されていることが大切である。

2つ目である。児童が自分の学習課題に対して、もっと調べてみたいと意欲的に追究していくことができるよう、説明や解説の資料、写真や絵図、表やグラフなどの資料がわかりやすく、児童が興味・関心を持てるように構成されていることがとても大切だと考えている。このような観点を重視して調査研究した結果、東京書籍と教育出版を推薦する。

新井委員

社会科の教科用図書として、私は教育出版を推薦する。理由は次のとおりである。

地理的分野のページにおいて、学びの目標がわかりやすくはっきりと示されている。私たちの町と市、働く人と私たちの暮らし、地域の安全を守る、私たちの市の歩みについて学ぶことであると示されている。そして、学びを進める展開として、「集める」、「読み取る」、「表す」とある。次に、見開きのページを使い、「この時間の問い」と「次につなげよう」との言葉で、問題解決学習の内容が示されている。その学年の学習のポイントを振り返るとともに、まとめとしている。そのまとめの一端として、折り込みの内容が充実している。学びの手引きとして、インターネットで検索する、さまざまな図や表で学習を整理する、自動車生産についての情報を集める、自然災害の種類や発生場所を読み取るなど、見やすく、効果的である。

地理的分野と同様であるが、歴史的分野では学習の進め方として、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「つなげる」とのキーワードが示されている。そして見開きのページ、「この時間の問い」と「次につなげよう」で、その単元の内容をまとめている。折り込みの歴史年表と「日本列島 歴史の旅に出かけよう」のページは特色があり、年代、また地域との関係がわかりやすく、興味、関心を引き出す上で充実している。大きな単元のま

とめとして「みんなで作った学習問題」は、主体的な学びを促す内容としてよく工夫されている。

以上の理由から、工夫、特徴がある教育出版を推薦する。

坂口委員

私も東京書籍と教育出版を推薦する。

東京書籍は、東北地震、津波、原子力発電の事故や、原爆投下のこと、非常にたくさんページを割いて丁寧に取り上げている。歴史学習の基本を全体的、総合的に取り上げていると思った。5年生では自然災害を取り上げ、どう対峙していけばいいのか、対策まで考えていこうとしている。また、沖縄にあるアメリカ軍用地のことも触れている。農の世界、米作り、生産地などについても載っている。ただし、障害者、高齢者、子供など福祉的な視点が少し弱かったような気がした。

東京書籍は2冊に分かれている。一方、教育出版は1冊である。教育出版がなぜ1冊かということが、読みながらよくわかった。

教育出版は、はじめの「ともに生きる暮らしと政治」で、政治の仕組みについて考えていく。日本国憲法の理解、政治の仕組み、18歳から参画する主権者としての選挙。高校生の選挙風景の写真などがある。障害者差別解消法も取り上げている。つぎに、具体的には世田谷区を取り上げ、高齢者、子供、赤ちゃんが守られる町について、また、ボランティアの存在などが書かれている。そういうことが全てつながったのが暮らしだということが、大変よくわかる内容になっている。

そして、ページをめくると歴史につながる。はじめに、現在の選挙風景の写真、それから90年前、昭和4年の大人の男性だけが行列している選挙風景の写真がある。2つを比べることで、90年前はこうだったのだという歴史が伝わる。それから登呂遺跡の米作りや博物館の展示写真などがあり、歴史へといざなっていく。いろいろな歴史の展開があり、近代史に向かっていく。最初から近代史までのつながりが、教科書一冊で伝わる編集だということがわかった。

東京書籍もそれぞれのテーマについて丁寧に取り上げ、大事なポイントがきちんと書かれていて評価するが、私は、教育出版が1番よいと思った。

教育長

私も教育出版と東京書籍がよいと思っている。

教育出版については、最初のページに、前の学年で学んだことが記載されている。振り返りのキーワードが、太文字になっていて非常にわかりやすい。また、単元の導入には学習問題が示されており、単元を一まとまりとして捉えた問題解決的な学習展開になっている。また、見開きの左のページに「この時間の問い」、右ページに「次につなげよう」が示されていて、見開きページで学習をすることが明確になっている。また、学習の連続性を生み出そうとしているところも特徴として見受けられた。全体として、教育出版が一番よいと思った。

東京書籍も非常に工夫された教科書であった。ただ、坂口委員からもあったように、5・6年生の教科書が2冊に分かれていることが気になった。分野によって分けている

のだが、分野同士のつながりがあった場合に、その2冊の分冊がかえってそのつながりを妨げはしないかと思った。ただ、内容的には、東京書籍も新しい学習指導要領にのっとして、できるだけ問題解決的な学習展開をさせようという意図が読み取れて、よい教科書だと思ったところである。

さて、今お聞きしたところ、教育出版を全ての方が推しているので、社会については教育出版を採択したいと思う。よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、社会については、教育出版を採択する。
次に、地図である。高柳委員から願います。

高柳委員

私は、地図については帝国書院を推薦する。

その理由であるが、地図は2社であるので、それぞれについてどう考えたかお話しさせていただく。

まず、東京書籍については、ワールドマップやジャパンマップ、まちを真上から眺めた資料、それから世界地図の動物や料理などの資料は、児童が地図への興味・関心を持つことができるように大変工夫されていると思った。また、高低が見やすく、きれいに多色刷りされているなどの特色がある。

帝国書院については、広く見わたす地図と、詳しく掲載されている地図、その2つに分けて構成されていて、児童の発達段階や使用目的により、使いやすいように工夫されている。また、巻頭の「地図のやくそく」、「地図帳の使い方」、および巻末の日本や世界の統計資料などが、とても詳しく記述、構成されていて、児童は課題解決的に、また主体的に調査、活動するために活用しやすく、記述、構成されているといった特色があると考えた。このような理由から、私は帝国書院を推薦する。

新井委員

地図に関しては、つぎの編集、特徴などから私は帝国書院を推薦する。

全体的に明るい色調で、地図や文字が見やすい。見開きのページで学びの内容がわかりやすい。「世界発見」、「日本をながめてみよう」、「世界の国々」など折り込みページがあり、日本、世界の全体が見える工夫がされている。地図上に、その地方の産業と特色などをイラスト化して示している。例えば、特産物、文化、歴史的遺産などである。このことによって、地域と特産物、施設等とのつながりが理解でき、児童に印象づけている。特別支援の子供たちにとっても、このような視覚的支援はわかりやすい。巻末の資料が充実している。日本の自然の様子、日本の自然災害と防災、日本の産業の様子、日本と世界の結びつき、日本の統計、世界の統計などが掲載されている。これらの資料は日常の学習はもちろんのこと、他教科との連携にも参考になり、まとめ、振り返りの資

料として様々な活用が期待できると考える。また、「地図マスターへの道」とのテーマで、地図の見方やポイントについて示されている。児童の主體的な学びを促進し、また疑問点を提示し、問題解決学習を促している。以上の観点から、工夫、特徴、充実が見られる帝国書院を推薦する。

坂口委員

どちらも地図の表現などわかりやすく、甲乙つけがたいと思っている。地図帳は、3年生から6年生まで長く使う。東京書籍のほうが、表紙が丈夫であるように思う。一方、帝国書院はやや薄くできている分、軽く、利用しやすいと思う。

また、東京都全体の地図では、東京書籍は肝心の練馬区が半分ぐらいしか載っていなかったが、帝国書院は23区が全て載っていた。やはり練馬の子供たちにとって、我が町である練馬区が、江古田あたりで切れているのは非常に残念だと思う。そういったことから、私は帝国書院を選んだ。

伊神委員

私は、帝国書院を推薦する。

2択であったので、まず東京書籍を選ばなかった理由を言いたいと思う。冒頭の絵だけという学びは、単純だと思った。地図上の情報は豊富で、子供たちが地図を見る中で、地場産業など、いろいろな情報が得られると思う。しかし、字が読みづらかったり、情報が多過ぎるため、本来の学ばなければならない地図の地形や形が消えてしまうところがあった。特に、都心部が見つらい気がした。

その点、帝国書院は、最初にある「地図のやくそく」や「地図帳の使い方」がとてもわかりやすく、しっかりと学ぶ方向性をつくっている。記号など、社会科で学ぶ過程に並行している。色も鮮やかで、土地利用や高低差などしっかり学習できる。QRコードも、クイズや資料のコンテンツなどがあり、興味が湧いてくるであろう。立体感のある地図は、子供たちがその土地を想像しながら学習できると思う。例えば、山脈がより細かく描かれている。険しい山だ、人が住むにはどうなのか、あたりは森林ばかりであろう、そんなことも頭によぎりながら学ぶであろうと思った。最後のほうのページでは、3年生から6年生まで、社会科で学ぶことと並行して載せられている。また、災害と防災、備えまで詳しく載せている。以上の理由で帝国書院を選んだ。

教育長

前回の小学校の教科書採択のときには、東京書籍を選んでいる。今回、改めて帝国書院と東京書籍を比べて見たが、帝国書院も前回とは内容を少しずつ変えながら、大変見やすくなっていると思う。特に3年生から地図を使っていく中で、もともと定評のある教科書出版社である帝国書院の地図の作り方が改めていいと思った。

地図については、全員が帝国書院を推薦しているので、帝国書院を採択するということがよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、地図については、帝国書院を採択する。
次に、算数である。新井委員から願います。

新井委員

算数については、私は第1に東京書籍、第2に学校図書を推薦する。

まず、学校図書の特徴である。2年生以上について「ノート名人になろう」があり、ノートの書き方が示されている。全学年について巻末に補充問題が用意されている。また、プログラミング的思考を育てるために、1年生「筋道を立てて考えよう プログラミングのプ」から、6年生「筋道を立てて考えよう プログラミングのグ」までを掲載している。全学年を通して活動があり、主体的・対話的で深い学びを実現するための内容となっている。

東京書籍は、学習の系統性がわかるように工夫されている。前の学習、既習事項、後の学習との項目でとてもわかりやすい。1年生のノート、「さんすうのとびら」は書き込みやすい。巻末が充実している。「ふりかえりコーナー」があり、既習事項のまとめとなっている。また、「新しい算数 プラス」として、補充問題や「おもしろもんだいにチャレンジ」などがあり、学習を深めることができる。ノートのつくり方をわかりやすく例示している。5・6年生はプログラム思考を育てる内容となっている。分冊で使いやすい。6年生のみ合冊である。保護者へのメッセージがあり、こういう力を身につけてほしいという内容である。フォントが太くて見やすい。日常の身の回りの事象につなげる題材があり、わかりやすい。各領域の分量が、児童の発達段階に応じてバランスよく配列されていると考える。以上の特徴から、東京書籍を第1に推薦する。

坂口委員

私は第1に啓林館、第2に大日本図書を選んだ。

大日本図書には、算数に興味を持って取り組むための工夫があり、全学年を通して丁寧に編集されていると思った。巻末に補充問題、次の学年への導入がある。6年生では中学校の学びへの期待につながる記事がある。どうして算数の学びが大切かということをお仕事インタビューという形で、それぞれの分野で働く大人に語ってもらっており、やる気にさせようという記事には大変好感が持てた。

第1の啓林館を選んだ理由を申し上げる。1年生では、さまざまな集合体の絵を見せて、自発的に1、2、3、と数えていくような導入部分が大変よいと思った。大きさ、形などさまざまある。生活科ともつながり、発展させている。自然に数字というものと仲良くなるような工夫がしてある。1年生向けの、やや難易度の高いものは、後ろの方の125ページにあった。他社は、早い段階の29ページぐらいにあり、比較してみても、きちんと理解の順番を踏まえていると思った。

6年生は点対称、線対称の図形からスタートしている。オリンピック・パラリンピックのエンブレムのデザインも、原案者が形の展開であることを説明していて、興味深く

できている。資料ページにも円の面積、円周率の出し方、商品の20%引きの価格の捉え方などの算数学習の基本があり、次のステップへの進め方に工夫が見られる。「わくわく算数ひろば」など、子供の関心、興味、やる気を起こすページがある。6年生では中学校への丁寧な導入があり、今のキャリアに算数が大切だという5人の先輩たちの体験談を掲載しているのもよいと思った。

啓林館のほうも、全体に算数が大好きと思わせるような創意工夫が感じられるし、また、そうであってほしいと思う。つまずきを見つけ出して、復習していくことも大切であり、それをしっかり導入している。サイズはB5で、ノートと教科書がともに広げやすく、これも適当と思う。

伊神委員

私は、1番に東京書籍、2番に大日本図書を選んだ。東京書籍と大日本図書の目次には、前の学年に学習してきたことが載っている。新学年になったときのつながりが示されているのがよいと思った。

東京書籍は「学びのとびら」で、学習の進め方が丁寧に示されている。また、大日本図書も「算数まなびナビ」で子供たちの学習意欲を促していると思う。東京書籍は文字が大きく、特に1・2年生では算数嫌いにならないようなつくりで、楽しく学べるであろう。低学年の学習の進め方は、とても理解しやすいものになっている。大日本図書は、黒板を背景に左上、右上に問題を定義しており、とても見やすい。絵などが、文字と文字、問題と問題の間に掲載されていると、子供たちは応用問題など読み込むことに集中できないと思う。読み取る力を意識している大日本図書は、文章問題も多く、「たしかめ」のページで復習させるような内容になっている。「発見、考え方」の部分もよりよい学習に生きていくのではないだろうか。プログラミングという言葉が低学年で使っているが、それも幼いうちから意識することで総合的な学習につながると思う。

小学校の教科書とは、と考えたときに、基礎をしっかりと教え、算数嫌いをつくらせないという配慮や、学年に合った流れを示している東京書籍を1番に選んだ。キャラクターや色遣いなども工夫されていると思う。

高柳委員

私は、算数については第1に東京書籍、第2に啓林館を推薦する。

その推薦理由である。まず1点目に、数量や図形概念、性質などを理解し、数理的に処理する技能を習得するために、説明や図、表、グラフなどの資料がわかりやすく適切な学習内容であるということ。2点目に、問題をつかむ、考える、話し合う、まとめるなどの問題解決の過程を通して、見通しを持って筋道を立てて考察する力、既習内容と結びつけ統合的に考えたり、発展的に考えたりする力を養うことができるような学習内容や構成になっていること。3点目に、児童が自ら学習問題を把握し、問題解決しようとする力や、算数で学んだことを生活やその他の学習に活用しようとする態度を養うために、効果的に記述、構成されていること。このような算数科の特色を考慮した観点重視して調査研究した結果、東京書籍、啓林館を推薦する。

教育長

私は、1番に東京書籍、2番に学校図書を選んだ。

東京書籍は、小数倍の考えを単元の一つで取り上げており、小数および分数への指導が丁寧だと思った。学習内容の系統性が重視されていて、知識を関連づけた学習を通して深い学びの実現を目指している。また、5・6年生でプログラミング教材を収録し、学習活動を通して論理的思考力を身につける内容となっている。

また、学校図書もさまざまな考え方が例示されていて、考え方を比較することで深い学びの実現を目指していると思った。演習問題の量も他の教科書より多く、繰り返しの学習を通して、基礎的な学力の定着を目指している点が特色としてあった。

皆さんの意見を聞いて私も今申し上げさせていただき、算数については東京書籍を推す声が多かったかと思っている。何かご意見があれば伺いたいが、いかがか。

坂口委員

私が、東京書籍を選ばなかった理由は、教科書がA4サイズで、かなり机の場所を占めるところにある。子供たちの学習の様子を見ていると、教科書とノートを広げて、さらに算数では計算などで機材も使うことがあるので、A4サイズは大きいと思った。

教育長

教科書のサイズも当然選ぶ際の観点の一つであるから、坂口委員としてはそういう理由で選ばなかったということであった。

ほかの委員の皆さんが東京書籍を1位に選んでいるので、私としては異論がなければ算数については東京書籍を採択したいと思う。よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、算数については、東京書籍を採択する。
次に、理科である。坂口委員から願います。

坂口委員

理科離れを防ぐために、いかに楽しく取り組めるか、多様な実験を通して、発見し理解する喜びを体験させようとしているかなどの視点で調査研究し、私は大日本図書を選んだ。目に見えない音の学習や、風、電気、磁気などの学習を丁寧に取り上げている。また、実験に取り組むための必要条件、安全に配慮していることなどが大日本図書のよい点だと考える。

伊神委員

私は、大日本図書を推薦する。

理科の学び方、教科書の使い方を丁寧に説明している。学習過程を段階的に導き、深

い学びにつながっている。子供たちが次に知ってみたい、やってみたいということを手順に授業に取り入れているような内容だと思った。具体的には、「見つけよう、調べよう、伝えよう」を子供に投げかけ、そこからの学習をわかりやすく解説していく形になっている。この形を崩さないことが、実験を進めていく上や、物を調べていく上で、段階を踏み見やすくわかりやすい内容となっている。写真も大きく、問題や結論部分は字も大きく、興味を持って学習できると思った。観察カードの書き方も一つのヒントとして参考になると思う。以上の理由で大日本図書を選んだ。

高柳委員

私は、大日本図書と教育出版を推薦する。

理科については、次の3つの観点を重視して調査研究してきた。まず1つ目に、児童が自然の事物、現象の物質・エネルギー、生命・地球について理解を深め、観察や実験などの技能を習得するため、効果的な学習内容になっているか。2つ目に、児童が理科への興味・関心を高め、持続させて、主体的に観察できる、また実験できるよう、問題解決の過程や説明、写真、絵図等の資料は適切に記述、構成されているか。3点目に、自然に親しみ、生命を愛する心や、自然についての興味・関心を持ち、主体的に問題解決しようとする態度を養うために、効果的な内容や構成になっているか。一つ一つの教科書について、この3つの観点を特に重視して調査研究した結果、大日本図書と教育出版を推薦する。

新井委員

私は、大日本図書を推薦する。

理由としては、次のような工夫、特色である。わかりやすい授業の工夫がされている。いろいろな実験過程があり、どのような実験なのかがわかりやすい。他社の実験のページでは、解説が多かったり、どのような実験をすればよいのかわかりにくいところがある。写真が不明瞭だったり、読み取りが難しいところがあった。

音の性質では、3点にわたって丁寧に説明されている。多様な実験方法、音の不思議、また安全面について配慮されている。言葉では言い表せない風、空気、磁石は、説明しにくい内容であるが、写真やよくわかる実験方法で解説されている。特に安全面については、保護メガネの着用について、この会社のみがイラストで掲載している。単元の最後には、「確かめよう」で学習の定着、「学んだことを生かそう」で実社会、実生活との関連が示されている。巻末は、実験器具の扱い方、まとめの問題などが充実している。重要語句は太字でわかりやすく、危険への注意点は注意のマークで示されている。図、絵、表、文章のバランス、レイアウトが見やすい。以上の理由で大日本図書を推薦する。

教育長

理科については、1点目として、日常生活や社会との関連が明らかに明示されていて、理科のおもしろさ、あるいは有用性が認識できるような教科書の構成になっているか。2点目として、実験手順をわかりやすく示すなど、見通しを持たせた授業展開によって問題解決活動が充実するような教科書の構成になっているか。この2点をもって教科書

を読ませていただいた。その結果、私としては大日本図書と東京書籍を推薦したいと思っている。

さて、ご意見をまとめると、全員が大日本図書を推薦している。理科については、大日本図書を採択するということがよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、理科については、大日本図書を採択する。
次に、生活である。伊神委員から願います。

伊神委員

私は、教育出版を推薦する。

目次では、1年間のどの時期に何をするのが示されている。目標を保護者の方にしっかりと伝えているのもよいと思った。「学びのポケット」では他の教科の学習にもつながっている。ポケットの中の「本から学ぼう」は、子供たちが本を読んでみようという興味を持つきっかけになると思う。写真の並び、コメント、絵がバランスよく掲載されており、見やすく、学びやすく、低学年が使用する教科書としてはとてもよいと思う。教科書に書き込める欄や、「まんぞくハシゴ」、ヒントの欄も授業に取り込めていけたら、楽しく学べるであろうと想像できる。1年生になって不安を抱えている子供や保護者には、「学校とは」で小学校の始まりの様子が写真で掲載されていて、とても親切だと思った。保健室や校長室など見たことのない教室も学べるようになっている。また、安全をしっかり身につけさせようとする写真は、子供たちにとって、とてもわかりやすいものになっている。以上のことから、教育出版を推薦する。

高柳委員

一つ一つの教科書の特徴やよさを具体的に挙げて調査研究した結果、私は東京書籍と教育出版を推薦する。

重視した観点であるが、1点目は、児童がどうなっているのだろう、もっとやってみようというような興味・関心を持って活動や体験を行い、自分や身近な人々、社会、自然の特徴やよさに気づくことができるようにするために、必要な記述や構成がされているか。2点目は、見つける、試す、工夫するなど、多様な学習活動や体験を行い、生活上必要な習慣や技能を身につけたり、気づいたことを多様に表現し、考えることができるようにするために、的確な学習内容や学習過程になっているか。このようなことを特に重視して調査研究した結果、私は東京書籍と教育出版を推薦する。

新井委員

私は、編集の特徴、スタートカリキュラム、幼保小の連携などの視点から、第1に教育出版、第2に日本文教出版を推薦する。日本文教出版は「いちねんせいになったら」

の単元で、「みんな なかよし」、「じぶんで できるよ」、「みんなで できるよ」、「じゅぎょうをたのしく」など、スタートカリキュラムの内容をわかりやすく示している。「ちえとわざのたからばこ」は、振り返りとまとめの内容としてよく工夫されている。

次に、教育出版は、巻末に「学びのポケット」が示されており、他教科と生活科との関連が図られ、他教科等に役立つ学習内容が示されており、充実している。具体的には、「見よう かんがえよう」、「つたえよう」、「どうぐをつかおう」、「おぼえて あんぜん」、「本から 学ぼう」などである。また、特徴のある内容として、教育出版の「まんぞくハシゴ」が印象に残った。単元の満足度を自己評価できるようになっている。それと関連して、1年間の単元が全て表記されているので、振り返りの学習にも活用できる。以上の理由から、教育出版を第1に推薦する。

坂口委員

私は、東京書籍と啓林館を選んだ。

東京書籍の保護者への呼びかけは、非常に共感を得た。1年生用にめくりやすくした配慮、少し小さいページもあり、工夫されている。学校案内など子供の目線になっている。地域と家の中の安全もきちんと伝えられている。公園や図書館などの公共の場所、自分の周りの社会のことについても取り上げてあるのがよかったと思う。

啓林館も、1年生向けにいろいろ工夫してある。写真やイラストもわかりやすいし、教科書の大きさなども適当だと思う。角が丸いページもあり、配慮が感じられる。絵本をめくる習慣がある子供にとっては、指先の感覚がとてもよいと思った。全体を通して障害者への配慮があり、ともに生きていることをさりげなく伝えている。また、保護者に向けた言葉がよく、共感できた。季節に合わせて単元が組まれていることも当然であるが、非常にわかりやすかったと思う。

教育長

生活については、具体的な体験活動を通じて、気づきの質、この向上が図られるような教科書の構成になっているかどうか。また、生命尊重の精神が伸びていく、向上していくという面で充実した教科書の構成になっているか。さらに、幼児期からの接続や中学年以降の教育への円滑な移行に向けて、各教科との関連が積極的に図られている教科書の構成になっているか。そういったことを主な観点として見させていただいた結果、私としては教育出版を推薦したいと思う。

以上、各委員のご意見をまとめると、東京書籍が2票、教育出版が4票、啓林館、日本文教出版はそれぞれ1票ということであった。教育出版を推薦する方が多かったが、何かご意見があればお話いただければと思う。いかがか。

坂口委員

各委員が教育出版を推薦する理由もよくわかる。私も3番目に挙げたいと思っていたので、教育出版で願います。

教育長

それでは、異論がなければ、生活については教育出版を採択したいと思う。よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、生活については、教育出版を採択する。
次に、音楽である。高柳委員から願います。

高柳委員

2社のうち、音楽の目標や指導方法の工夫、改善事項などを検討した結果、私は教育出版を推薦する。

推薦した理由として、特に次のような観点を重視した。1つ目は、写真や絵図、説明等の資料がわかりやすく、児童の発達段階に合わせて音楽への興味・関心を引き出すことができるような教材が多く掲載されている。また、一つ一つの教材や巻末などの資料が詳しく、わかりやすく記載されていて、音楽を理解し表現する力や、音楽に親しむ態度を養うために適している。

2つ目は、鍵盤ハーモニカやリコーダーの導入について、スモールステップでわかりやすく表記されているなど、音楽表現をするために必要な技能を身につけることができるように工夫されている。このような観点を重視した結果、教育出版を推薦する。

新井委員

私は、音楽については、特色、工夫、充実などの視点から教育出版を推薦する。

教育出版は、全学年に児童の主体的な学びを引き出す「まなびナビ」を設けている。中高年では「学び合う音楽」のコーナーを設定し、学びのプロセスを示している。透明なシートを使ったオーケストラの楽器の配置の説明は、とてもわかりやすい。児童の主体的な学習を促している。「音のスケッチ」というコーナーでは、音楽づくりの教材を扱っており、さまざまな工夫、充実が見られる。リコーダーの説明では、リコーダーの表と裏を図解し、基本的な用語とともに、穴の位置がわかるように配慮されている。また、3年生以上は指使い、運指図が折り込みで説明されている。日本の歌の紹介では、「ふじ山」、「君が代」、「夕やけこやけ」などがある。歌詞とともに、富士山やこいのぼりなども大きなサイズの折り込み写真で掲載されていて、とてもきれいである。各学年の巻末の資料も充実している。「音楽のもと」、「だがつき いろいろ」、「にっぽんのうた みんなのうた」などである。また、パラリンアートが掲載されおり、障害者アートを支援する取組がある。ハートの絵が楽譜の上に掲示されていて、印象的である。特別支援の子供たちを理解するページとして工夫されていると思う。以上の理由で、教育出版を推薦する。

坂口委員

私は、教育芸術社を選んだ。

低学年を比べてみると、2社ともほとんど曲も内容も同じであり、そこに違いを見つけることができなかった。教育芸術社を選んだ理由である。ブラインドサッカーで観客は音を出さないで静かに応援することや、楽器、歌舞伎、邦楽、和楽器の取組、「待ちぼうけ」の歌の背景などを取り上げている。日本の伝統である祭りの太鼓のリズムなど、和のテイストも多かったのが教育芸術社であった。音楽の学術的な内容、作曲、音をつくり出そうという記載もあり、音楽というものを学習することについての指導が見られた。楽器の取り扱いなどについては、どちらも丁寧でわかりやすかった。

伊神委員

私は、教育芸術社を推薦する。

音楽は2社であるので、2社を比べながら説明したいと思う。教育出版は、子供たちが使用する鍵盤ハーモニカやリコーダーの指の使い方を細かく説明しており、とても親切である。リズムの取り方なども、手拍子、足踏みなども入っていて、体を動かしながらの学びもできそうである。日本の歌の写真もすばらしかった。ただ、教育出版の「音楽ランド」の音符を見たときに、ピアノや楽器を習っている子は理解できるが、音楽の授業としての譜面としては少し難しかったように思った。

教育芸術社は、2年生の初めから旋律という言葉を使っている。幼いうちからこの言葉や意味がわかれば、音楽で習う音符や歌、演奏など、より理解しながら学習していけると思った。リコーダーのタンギングを学習するところでは、音の出し方で「tu」を使っており、とてもよいと思う。日本語の「トゥ」では音が流れてしまう子が多く、そこを直すことが本当に大変である。3年生から英語を身近で感じる時間が増える中、「tu」を使って学ぶことも大きな意味があると思う。新しく覚えることなど、子供たちが学ぶことがわかりやすく、教科書もとても見やすい。音楽の授業で今日は何をしたか、前回は何をしたかを確認するためにも、「ふり返りのページ」は教科書の役割を果たしていると思う。いろいろな楽器の説明や写真は、見やすいものになっている。日本の文化やオーケストラに親しむためのページも充実している。以上の理由で、教育芸術社を選んだ。

教育長

3年生のリコーダーの導入ページを比べると、リコーダーを表から見た写真は両方の出版社に載っているが、教育出版は裏から見た写真も載せており、比較的わかりやすいこと。音楽を形づくっている要素を「音楽のもと」として示して、教材や活動に関連するものを見開きごとに明示し、児童がその働きを意識しながら学ぶことができるようにしていること。3年生以上については、自ら見つけた音楽の要素を書き込むメモ欄を設けていて、主体的な学びが進むこと。これらのことから、教育出版のほうがいいかと考えた。

意見をまとめると、教育出版が3票、東京芸術社が2票となる。意見が分かれたので、選ばなかった出版社に対する意見を、もう一度伺いたいと思う。伊神委員から逆回りをお願いする。

伊神委員

私が選ばなかった理由である。先ほども言ったが、教育出版の「音楽ランド」の音符が少し難しいと感じた。もちろん楽器は楽器用、歌は歌用という形で載せているが、子供にとって、目で見たとときに少し難しいと感じた。

それから、3年生からのリコーダーに注目した。先ほど教育長が言われた、裏から見た図は、確かにすばらしいと思う。しかし、東京芸術社は「t u」という言葉を使っており、子供たちに「トゥ」と「t u」の違いを教えていくにはここだなと思った。そういった部分が、教育出版の演奏するというリコーダーの部分に少し欠けているような気がした。

坂口委員

「ゴジラ」の楽譜が小さく、見にくいように思う。しかし、私としては、2社ともほぼ同じような内容であり、どちらを選んでもよいと思っている。

新井委員

私もこの音楽については、2社ともほぼ同じような内容で、差を見つけるのが難しかった。先ほど述べた、パラリンアートのことと、透明なシートでの配慮という点を評価し教育出版を選んだ。

高柳委員

教育出版、教育芸術、どちらも甲乙つけられないように本当によくできた、創意工夫された教科書だと思う。教育出版の先ほど言わなかった理由である。まず、一つ一つの教材や楽曲に対して、児童がよくわかるように説明されていて、児童の理解力や思考力、表現力を身につけることに適しているということ。2つ目、学年の発達段階に適した児童が興味・関心を持てるような教材が配列されていること。3点目として、写真や絵図が非常に鮮明で、児童の興味・関心を引き出すために効果的であること。このような理由から教育出版を推薦した。

教育長

それぞれ2巡目のご意見もいただいた。多数決で決めたいとは思っていないが、今の意見を聞く限りでは、教育出版のほうがやや多いかと思っている。異存がなければ、音楽については教育出版を採択したいと思う。よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、音楽については、教育出版を採択する。
次に、図画工作である。新井委員から願います。

新井委員

図画工作については、次の特色、配慮などを理由に、私は開隆堂を推薦する。

まず、学習の目標、学びのめあてが明確に示されている。この科目を通して育てたい資質、能力のめあてとして、「くふうさん、ひらめきさん、こころさん」の3種類のマークがあり、わかりやすい。自己評価で、何が身についたのかを確認できるように工夫されている。表現の題材は、造形遊び、絵で表現、立体で表現、工作で表現、そして共同活動である。表現技法や用具の使い方を具体的に示している。低・中・高学年の上下分冊で扱いやすい。安全のページでは、版画などのカッターやナイフの使い方等、注意マークの表記で具体的な注意などが記述されている。図画工作で育つ力を大きく3つの視点を示している。学習のめあてとして3点、形や色、方法や材料を知って工夫する力、試したり見つけたりして考えたり思いついたりする力、心を開いて楽しく活動し、友達とかかわり、協力し合う力。作品の制作手順が制作ごとに示されている点が特徴である。徐々に出来上がる過程を、また、その際の発想、構想、手立てが掲載されている。巻末が充実している。「造形の引き出し」のテーマで、ペンチの使い方、電動糸のこぎりの使い方、金づちの使い方など、各道具の使い方の初めから終了まで、丁寧に解説されている。以上の理由から開隆堂を推薦する。

坂口委員

私は、日本文教出版を選んだ。

今、新井委員がおっしゃったような道具の使い方、安全面の丁寧な注意については、文教出版でも取り上げられていた。開隆堂は創作表現にカメラを取り入れており、非常に新しいと思う。また、日本の伝統文化の紹介や他教材との関連づけも特徴的であった。

文教出版は、プロセスを重視し、次は何をするかの順番を丁寧に説明している。

美術、工作、作画は、子供たちそれぞれの感動や感性を絵にすることである。それは決して誘導ではなく、自然発生的に芸術作品ができる。それぞれの作品が、同じような表現ではなく個性的なものになるには、たくさん絵を見、たくさん体験を積んでいくことが大事であろうと思っている。文教出版で特に私が興味深く引かれたのは、5・6年生用の表紙をめくったところにあるアートのページである。一つは、古城の崩壊寸前のペン画であり、その表現の非常に魔力みたいなものに見入ってしまった。どれだけの時間をかけて描いたのだらうというような、見事な線画であった。もう一つは、子供たちの大好きな電車が一つずつ細かく並べて描かれた、非常に迫力ある絵である。子供たちの目にどのように受けとめられるのか、非常に惹きつけられる絵であった。このようなアートが載っているのが、日本文教出版であった。

伊神委員

私は、日本文教出版を選んだ。

開隆堂は色合いや写真のインパクトがあり、作品としてとても見やすいものになっていると思う。しかし、文教出版は、子供たちのコメントや、いろいろな技法が掲載されており、子供たちがただ作品をつくるということではなく、何をテーマにしているのか、

何がおもしろいのかを示している。題材名の上のコメントや、下のほうの問いかけは、子供たちが目的意識を持って学べる。学年ごとに今思ったことや感じたことを絵で表すページもあり、6年間で成長が見られる一つだと思う。インパクトという部分では少し欠けるかもしれないが、音、光、自然の素材などの柔らかいタッチで表現されている。全体のバランスがとてもよいと思った。図画工作のつながり、広がりも、社会科や生活科へのつながりも、深い学びにつながっているのではないだろうか。

開隆堂の5年・6年「龍を見る」は、日本的、文化的かもしれないが、小学生には少し難しいような気がした。中学校で習う美術というイメージを持った。これらのことから、日本文教出版を選んだ。

高柳委員

図工については、開隆堂を推薦する。

その理由は4点ほどある。1点目、学習の目標が明確に示されていて、図工の学習でどのような力を育てたらよいのかよくわかるようになっている。2点目、作品のイメージを持ち、どのような作品をつくるのか、児童自身が主体的に考えて学習できるような教材が多くある。3点目、各学習や巻末の資料について、作品のつくり方、用具の使い方、安全面などについてわかりやすく記述されていて、児童が材料や用具を工夫しながら表現することなど、創造的な技能を養うために適している。4点目、写真や絵図の色が鮮やかで、児童が自分もつくってみたいという創造的な発想や構想力を培うために効果的な作品が多く掲載されている。以上の理由から、開隆堂を推薦する。

教育長

私は、開隆堂を選んだ。

開隆堂の写真では、完成作品が多く取り上げられている。これは、学習指導要領にも示されている表現および鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせる、そのことを意図しているからだと思っている。活動を通して学ぶことや、自分自身が表現したいことを模索する中で、つくる喜びを味わうとともに、感性を育んでいく教科である。開隆堂では、さまざまな表現として児童の作品を評価しているのも特徴の一つであり、あり、私としてはよいと思った。

この図画工作も、開隆堂が3票、日本文教出版が2票となり、意見が分かれた。

日本文教出版を選んだ坂口委員、伊神委員からも他社に対する意見も出ているので、全ての意見を考慮した形で、皆さんにお諮りをする。開隆堂は3票、日本文教出版は2票であるので、ご異存がなければ開隆堂ということにさせていただきたいと思うが、いかがか。よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、図画工作については、開隆堂を採択する。

さて、12時を回った。あと4科目であるので、休憩を入れてもいいが、もしご異存がなければ、このまま最後まで進めたいと思っている。よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、続けさせていただく。
次に、家庭である。坂口委員から願います。

坂口委員

私は、家庭科は2社のうち、開隆堂を選んだ。
家庭科では、たくさんのことを学ばなければならない。調理や洋裁、フェルトを使った小物づくりなどで明らかに違いがあったので、その点で開隆堂にした。
ほうれん草のお浸しのつくり方は、ほうれん草を根元からゆでる、ゆで上がった水にとって、切ってお皿に並べるという工程である。開隆堂では、その切る場面もイラストで丁寧に示していた。また、キャベツは芯を取ってゆでるが、開隆堂では芯を取る場面があったが、東京書籍は言葉だけであった。
それから、気になったのがフェルトを使った手縫いの作品である。東京書籍は何に使うのかわからないミニバッグであるのに対し、開隆堂はカード入れが載っていた。今、いろいろな場面で子供たちはカードを持つので、カード入れは実用性もあると思う。より丁寧に手順を踏んで編集されたのが、開隆堂だと考えた。

伊神委員

私は東京書籍を推薦する。
5年生になって初めての教科であり、子供たちが教科書を開いたとき目に飛び込んでくるのが写真である。調理の仕方、裁縫、ミシンの糸がけ、それぞれの作業を細かく示しており、それらについての説明文も読みやすくわかりやすい。特に裁縫では「リンク」に示されている手順が、学習の大きな助けになると思う。また、左利きの包丁の使い方は、右利きの先生が教えるには大変なことである。細かい指使いなど抜け落ちてしまうので、やはり写真は必須ではないかと感じている。学年ごとの学習のまとめがあり、5年生でできたことを6年生に、6年生でできたことを中学生につなげるための導きがあった。洗濯での学習は、JISによる取り扱いがあり、日ごろ実際に目にし、日常生活に生かせる学びがある。献立を考えると、6年生になり調理実習もなれたころに、今度は栄養バランスを整えることを勉強する。主食、主菜、副菜、汁物などのマークや、表示、写真が掲載されており、調べてやってみる、深める学習につながっていると感じた。

高柳委員

私は、家庭科については東京書籍を推薦する。

その理由である。1つ目は家庭生活や衣食住などについて、学習課題や学習のポイント、各教科の資料が系統的にわかりやすく記述、構成されていて、日常生活に必要な理解と技能を身につけることができる。2つ目は、各学習が課題発見、課題解決、実践活動、評価、改善の学習過程で記述、構成されていて、日常生活の中から課題を設定し、課題解決的な学習を通して課題を解決する力を養うことができる。3つ目、「深めよう」などの学習内容は、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うために適している。これらの理由から、東京書籍を推薦する。

新井委員

私は、東京書籍を推薦する。

まず、さまざまな場面で、安全面での配慮がなされているのが特徴だと考える。具体的には裁縫における文章と絵を用いての針の扱いについて、そのことがよく示されている。調理実習中の左利きへの対応、さらに実習中の安全対策などである。全ての単元はスリーステップの学習の流れ、「見つめよう」、「計画しよう・実践しよう」、「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」、そして活動がフォーステップ、「話し合おう」、「調べよう」、「やってみよう」、「深めよう」などで構成されており、わかりやすい。各単元のステップごとに学習のめあてが示されている。また、「ふり返ろう」は自己評価である。具体的な活動としては、一人一人の児童の発達段階に応じたの取組になっている。家庭科の基礎として内容の要点が示されている。「生活を変えるチャンス」のページは、自己の生活を見つめ直す内容であり、これまでの学習の振り返り、まとめにもなっている。巻末の資料が充実している。2年間の振り返り、調理実習技能の一覧、郷土料理、食品の分類、安全対策、用語の索引などがある。以上の理由で東京書籍を推薦する。

教育長

今回の改定では、学校で家庭科の内容を知識として押さえるだけではなく、いかに家庭に結びつけるかということが重要だということで、私はその観点から見させていただいた。また、調理や裁縫の説明にかかわる写真等の見やすさ、わかりやすさという観点も参考にさせていただいた。

その結果、私としては東京書籍がよいと思った。コラムも非常に充実しており、「プロに聞く」というところが10カ所ほどあったのだが、生産者等とのつながりがわかる。「生活を変えるチャンス」も、家庭での実践につながっていくだろうと思った。

さて、家庭では東京書籍が4票であった。異存がなければ東京書籍ということで採択したいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、家庭については、東京書籍を採択する。
次に、保健である。伊神委員からお願いする。

伊神委員

私は、東京書籍を推薦する。

教科書の使い方で、子供たちがどのように学んでいくかがとてもわかりやすい。保健とは、生活科とも違い、どのような授業になるのかと子供たちが思っている中、学習の進め方は理解しやすいと思う。ステップごとのページの使い方、写真、絵などに対しての文字の配列、説明文などしっかりと読み込ませるところは読み込ませるつくりになっていて、とてもすばらしいと思った。單元ごとの資料はステップ4のまとめの後に、こんなことも覚えておこうねという配慮ある内容になっている。「つなげよう」も他の教科との関連性を子供たちが感じながら学習していくことができ、深い学びにつながっていると思った。以上のことから、東京書籍を推薦する。

高柳委員

私は、東京書籍と光文書院を推薦する。

保健の教科書を調査研究する際に、特に重視した観点が3つある。1つ目は、学習課題や学習のポイントがわかりやすく、的確に記述されていて、身近な生活における健康や安全についての知識、技能を身につけることができる。2つ目は、気づく、調べる、深める、まとめるなどの学習過程で記述、構成されていて、身近な健康課題に気づき、いろいろな情報を活用して、課題解決する力を養うことができる。3つ目は、説明資料及び写真、絵図などの教材が効果的に使用されていて、児童が自分の健康や安全について、さらに調べたい、学習したいという興味・関心や学習意欲を持てるように工夫されている。以上3つの観点から選んだ。

新井委員

保健について、私は学研みらいを推薦する。

巻の初めで健康とはどんなことか、そのことを通して保健の見方、考え方を考えさせている。学習目標並びに学習方法はわかりやすく、はっきり示されている。「つかむ」、「考える・調べる」、「まとめる・深める」、こういう活動を通して問題解決学習の展開となっている。「まとめる・深める」の段階で、自分の生活につなげて考えたことを書き込めるスペースが用意されている。児童の書き込みページが多く、思考や判断したことをまとめる形になっており、主体的な学習を促している。実技、技能については、練馬区としても楽しく運動を続けようとのテーマで体力アップの取組を実践しており、そのことが掲載されている。以上の理由で学研みらいを推薦する。

坂口委員

私も学研みらいと光文書院を推薦する。

学研みらいは、体の成長によって生じる、いろいろな違いに対する配慮がある。保健室で相談することのほかに、子供ダイアル、子供の人権110番などの相談窓口をきちんと載せている。大人になるにつれてどうしても避けて通れないお酒、たばこ、それからもっと怖い薬物などについての害についても、どの出版社も取り扱っているが、学研

みらいの取り扱い方は特に説得力があったと思う。災害時の安全の確保、それからパソコンやスマホなど、自分で守る健康、身体についても触れている。全体にメリハリがあって、子供に訴える、アピールする力が感じられるのが学研みらいだと思う。

光文書院は、思春期の変化が起こらないなど、人によって生じる成長の違いについて配慮があり、よかった。相談窓口の紹介や、悩みを抱える人に寄り添う一文もある。また、指のさかむけなど、イラストだけでなく写真によるリアルな表現があった。イラスト、写真等のまとまりがあるのが光文書院だと思う。

教育長

私は、学研みらいを選んだ。「病気の予防」の「発展」として、癌について1ページしっかりと割いている。それから体の発育、発達の個人差について、繰り返し記載をしている。いろいろな大人や子供たちの話を取り上げて、身体の変化やそれに対する不安や対処法について詳しく記載しているのもよいと思った。また、不安や悩みへの対処についても、いじめについての具体的な対処方法に2ページを割いているということ。スクールカウンセラーや相談機関に相談できることが紹介されている等々、保健体育としての観点から見て、学研みらいが一番ふさわしいと感じたところである。

意見をまとめると、東京書籍が2票、光文書院が2票、学研みらいが3票ということであった。伊神委員と高柳委員から学研みらいに対して何かご意見があれば、お話をいただければと思う。いかがか。

伊神委員

学研みらいも、とても良かったと思う。ただ、絵と言葉が一緒になっていて、漫画を読んでいるような感じに陥った。子供たちにとっては、それが読みやすいのかとも思ったが、教科書という点では東京書籍を選んだ。教科書としての内容は、学研みらいも、すばらしいものだと思う。私は、光文書院、学研みらいも2番目、3番目に選んでいた。

高柳委員

私も学研みらいについては、学習課題や学習のポイントがわかりやすく提示されている。それから、「つかむ」、「考える・調べる」、「まとめる・深める」といった課題解決型の学習過程で構成されていて、課題解決の能力を養うことができる。また、不安への対処などの技能を養うための資料は、わかりやすく構成されているなどのよい特色やよさがあると考えている。

ただ、けがの手当てについて、技能を養うための資料が少なめであり、また、写真資料が少ないと感じた。写真資料を使ってもよいところに絵図を活用している。保健の学習では、子供が課題解決をしていくときに、実物、写真、絵図などが重要な資料になると思う。

しかし、もちろん学研みらいの教科書についても、先ほど各委員がお話しされたような特徴とかよさがあると思うので、異存はない。

教育長

それでは、ご異論がなければ保健については、学研みらいを採択したいと思う。よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、保健については、学研みらいを採択する。
次に、外国語である。高柳委員から願います。

高柳委員

外国語については、東京書籍と教育出版を推薦する。

その調査研究してきた観点である。1点目、児童が興味・関心を持って外国語の学習ができるように、学習内容や写真、絵図、説明等の資料がわかりやすく記述、構成されていて、外国語の音声、文字、慣用表現、文章構造などの知識や技能を確実に身につけることができるように工夫されている。

2点目、コミュニケーションを行う目的や場面などに応じて、身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり読んだりすること、および情報や自分の考えなどを、外国語で話したり書いたりすることができるように、各ユニットやレッスンの学習内容や資料が的確に記述、構成されている。特にこの2つを重点に調査研究した結果、東京書籍と教育出版を推薦する。

新井委員

私は、教育出版を第1に、光村図書を第2に推薦する。

まず、第1の教育出版の推薦理由であるが、学習のめあてがはっきりしていて、わかりやすい。教室で使う英語表現がテーマで親しみやすい。導入として「Let's Watch」、まずは聞く、映像を見ながら進める。レッスンごとにキーセンテンスを学び、そして授業の最後に書く活動を行う。学習の見通しがはっきりしている。絵本を取り扱ったり簡単に有名な楽しい英語の曲を歌ったりする。ストーリー、学習の流れ、見通しがわかりやすい。聞く、自己紹介、名刺カードを作成し、友達とコミュニケーション、交換し合うという授業の流れである。短時間学習に適していると考え。切り取りカード、シールがあり授業に活用できる。

第2の光村図書についても、推薦理由を簡単に説明する。巻頭に、教師が使う英語表現が掲載されている。どのユニットも登場人物のストーリーを聞くことから始まる。ステップは聞く、書く、読む、話し合う活動である。教科書の後半は「絵辞典」を使ってのイラストと英単語の授業になる。各学年9個のユニットで構成されている。児童が英語を筆記する欄は少ない。英単語のシールが活用できる。以上の理由から、教育出版を第1、光村図書を第2に推薦する。

坂口委員

私は東京書籍を選んだ。

小学生にとって初めて取り組む英語が、とにかく楽しいもの、おもしろいものだと感じられるように、できるだけたくさんの英語を使ってコミュニケーションできるように各社が工夫してつくられている。

CD音声で発音を正しく受けとめることができるのか。本当はネイティブの方の発音をしっかりと聞いて内容を理解し、発声して伝えようという意欲を引き出すことが大切であろうと思う。耳から入る音を中心に、聞く、話す、あるいは歌うことから、英語への興味、おもしろさを感じることを大切にしている。コミュニケーションの第一歩を体験できる外国語活動について、その後に発音して聞く、ヒアリングをするとうまく通じるようにどの社も取り組んでいる。「ABCを書きましょう」と「簡単な単語を書いて覚えましょう」という段階を早くすると、苦手意識につながらないだろうか、配慮が必要だと思う。また、楽しく英語を発声してリズムをとったりするだけでいいのか。He、She、It で始まる文の動詞は、goes、takes、talks というふうに、s や es をつけるという文法的な学びはどうするのか。小学校では、ただ楽しくおしゃべりしてコミュニケーションをする英語だけでいいのか、少し疑問に思っている。どの社もCDを聞かせて、これは今何と言っているのか、何を説明しているのか、そういう設問が非常に多かったと思う。

東京書籍は、全体的なバランスがととてもうまくできている。書く学びは後のほうに載っていた。巻末のコミュニケーションカードの活用も役に立つかと思った。4年生までの学習を取り入れて、ここから発展させようとしていたのが東京書籍である。

あえてもう一つ挙げるなら、光村図書である。やはり英語に親しもうという目標がしっかりしていて、構成も見やすく、混乱がないと思った。

伊神委員

私は教育出版が1番で、東京書籍が2番である。

まず、東京書籍であるが、ステップごとに分かれていることで内容がわかりやすい。大事な箇所は文字が太く色分けされているので、子供たちに、今何を、何の言葉を覚えてもらいたいのがよくわかる。5年生、6年生も最初は音やゲーム感覚のページになっていて、そこからの展開になっている。文章も多くなく、絵とのバランスも大変よいと感じた。

教育出版は、教科書で行う主な活動や目次から始まり、子供たちが外国語の教科書を使ってどのように学習するのが丁寧に説明されており、とてもわかりやすい。目で見て、音で聞いて、言ってみるに至るまで、細かく段階を踏んでおり、ページごとの課題の出し方はとてもよいと思った。

5年生のマップは、地図を使っている社会科や生活科の延長線上のようで、覚えることにつながっている。6年生の日本文化も他の教科との学びにつながっている。オリンピック・パラリンピックのコーナーや世界で頑張っている人など、普段の生活で取り上げられる内容は、子供たちが興味を持ち、おもしろいと感じてくれる瞬間かもしれない。

「My Word Bank」では、いろいろな単語が掲載されていて、使ってみたいと思ってくれるであろう。身の回りにあるものや事柄を、まずは目にして、耳にして、そんなこと

から意欲湧く外国語授業になってくれたらと望んでいる。中学校に上がったときに、小学校で使用した教科書がとても役に立つと思う。これらの総合的なことから、私は教育出版を選んだ。

教育長

私は、1番が学校図書で、2番が東京書籍であった。

学校図書のつくりが、シンプルかつわかりやすい。各レッスンの最初に目標がわかりやすく明記されており、見開き1ページに1時間ないしは2時間の学習内容がきちんとまとまっている。書くという活動についても、レッスンごとにバランスよく取り入れられている。レッスンごとに登場人物たちの物語が進められていて、児童がとつきやすいのではないかと、初めての教科書としては学校図書がいいかと思った。

もちろん、東京書籍もユニットごとの学習の流れが見やすくわかりやすい。コミュニケーションを主とした活動の流れが、非常に丁寧に掲載されていてわかりやすかった。また、東京書籍は「Picture Dictionary」が教科書とは別についていて、これも利用価値が非常に高いのではないかと思ったところである。

さて、まとめると、東京書籍が4票、学校図書が1票、教育出版が3票、光村図書が2票ということで、新井委員以外は東京書籍を選んでいる。新井委員、東京書籍に対して何かご意見はあるか。

新井委員

特にない。東京書籍で結構である。

教育長

それでは、外国語については、もし異存なければ東京書籍を採択したいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、外国語については、東京書籍を採択する。
最後に、道徳である。新井委員から願います。

新井委員

私は、この道徳の図書を推薦するにあたって、重要課題のいじめ、命の尊さ、情報モラルに関する教材の特徴、選択、工夫、配慮が、編集づくりにどれだけ反映されているかを判断の基準とした。そして、教材そのものが私自身の心をどれだけ揺さぶったのか、感動したのかも判断の一つとさせていただいた。

推薦したい第1は光村図書、第2は東京書籍である。編集の工夫があり、私の心を揺さぶった、感動した光村図書を第1とする。

第2の東京書籍の推薦理由についてである。具体的な教材を比較しながら検討できるようになっている。「いじめのない世界へ」が全学年設定されている。道徳的価値の理解を深めるための発問のヒントを得られる教材が選択されている。巻頭でいじめ対応の教材を明示しており、わかりやすい。「道徳の学習を進めるために」、「道徳の時間が始まるよ」、また「出会う・ふれ合う」は全学年2カ所設定されている。心を揺さぶられた主な教材は、「耳の聞こえないお母さんへ」、「なにかお手つだいできることはありますか?」、「点字メニューにちょうせん」、「その遊び方、だいじょうぶ?」、「心をつなぐ音色」、「あなたはどう考える?」ほか30点である。

第1の光村図書の推薦理由は、つぎのとおりである。各学年の目次で、各教材の道徳的価値の4分野の配列がわかりやすく示されている。4分野の中で特に重要課題であるいじめについては、小5「すれちがい」、「どうすればいいのだろう」、小6「この胸の痛みを」、「泣き虫」などが掲載されている。コラムも「いじめを見つけたら」、「おたがいを大切にしよう」、「いじめにどう向き合うか」のテーマで、教材が工夫されている。また、いじめとの関連で、「情報と向き合う」とのテーマで、幾つかの教材を配列、工夫している。命の尊さに関する教材も、いじめ問題解決への示唆を含んだ内容が読み取れる教材が見られる。学習の進め方については、教材ごとに話し合っ、演じて、読んで、書いて考えようという編集づくりで、児童の学びを展開している。「この本で学ぶみなさんへ」とのタイトルで、楽しいキャラクターを使って進め方についてわかりやすく示している。また、学びの記録として、年3回、まとめ、振り返り、学習のポイントを確認させている。巻末の付録の資料が充実している。「あなたへのメッセージ」や、よりよい人間関係をつくるための話し方のコツなどが掲載されている。そして、教員に対して、この教科書が目指した各学年の児童の姿として、一覧表にまとめられており、学習内容、ポイントが活用できるように配慮されている。また、漫画で描かれた「なんだろう なんだろう」は、児童の関心を引き出す楽しい編集企画だと考える。以上、編集、工夫、特徴、特別支援の視点など、他社と比較し、総合的に判断して光村図書を推薦する。最後に、私の心を揺さぶった教材を紹介する。発問のヒントが引き出されると考える、「命の祭り」、「みんなちがって、みんないい」、「思いやりのかたち」、「命の詩—電池が切れるまで」、「ぼくの名前呼んで」その他31点である。

坂口委員

私も光村図書を選んだ。6年生では、いじめについて、著名な若い女性タレントのメッセージから始まっている。それをどう受けとめるのか考え、それから、みんなの人権は守られている、世界人権宣言の学び、クラスの人権を考えていこうと、そういう展開が非常にスムーズに進んでいた。それから、教室に届いたコスモスの花を男の子が生けかえる、そのことに対するクラスの子供たちの変化、そういう場面も生き生きと書かれていてわかりやすかった。障害者の両親を持った太郎君が、お父さんの手話による懸命な訴えを受けとめる、その太郎君の様子は非常に感動できた。オリジナルの作品があり、しかもそれで人に感動を与え、子供たちに考えさせようとする編集の意図はとてもよかった。マザーテレサやキング牧師などの取り上げ方も非常によかったと思う。

伊神委員

私は光村図書を推薦する。

子供たちがどのように感じ、発言し、自分の心を表現するかまでが、絵とともに掲載されていて、子供たちがどのように授業をするのかがうかがえる。「いじめを許さない」などは、何かに向き合う姿勢を示していて、教材としてとてもわかりやすいと思った。教材ごとの「考えよう・話し合おう」、「つなげよう」も、子供たちに深く考えてもらい、日常生活で生かせるよう学ぶことができる。題材の初めにあるキャラクターの一言や問いも、子供たちの教科書の読み方が変わってくると思う。感じ方は人それぞれであるが、その子なりに思うことや、やらなければならないことが表現しやすい教科書になっていると思った。答えがあるという授業ではない中、自分で書き込める「学びの記録」は、授業中言葉でうまく言えなかった子や表現できなかった子も、しっかり参加できた証しになるのではないかと思う。

高柳委員

道徳は、一つ一つの教科書が道徳の目標を達成できるように創意工夫されてつくってあり、大変迷ったが、私は光村図書を推薦する。

特に重視した観点は、次のとおりである。1点目、児童は学習問題について自分自身のものとして興味・関心を持って学習し、道徳的価値についての理解や自分の考えを深めることができるような教材が多く掲載されている。2点目、いじめ防止、家族愛、生命尊重、持続可能な社会、環境保護、情報モラルなど、今日的な課題について児童が自分の問題として捉えて考えて、道徳的な判断力、心情、実践意欲を育てることができる。3点目、問題解決的な学習を通して、児童が自分の学習問題を持ち、多面的、多角的に考えて自分の生き方についての考えを深めることができるように学習過程を構成している。以上の観点から、調査研究した結果、光村図書を選んだ。

教育長

私も道徳については、考え、議論する授業を目指す上で適切な内容となっているのかどうか。登場人物の心情を理解するだけでなく、児童が自分のこととして考えられる内容になっているかどうか。また、問題解決的な学習や体験的な学習を展開できる教材が位置づけられているかどうか、これらの観点を重視して各社見させていただいた。結論としては、私も光村図書を推薦したいと思っている。

以上、皆さんから推薦の理由、推薦教科書を言っていた。道徳については、全員が光村図書を推薦しているので、光村図書を採択したいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、道徳については、光村図書を採択する。
以上で、全科目の採択は終わった。

改めて申し上げる。国語は光村図書、書写は光村図書、社会は教育出版、地図は帝国書院、算数は東京書籍、理科は大日本図書、生活は教育出版、音楽は教育出版、図画工作は開隆堂、家庭は東京書籍、保健は学研みらい、外国語は東京書籍、道徳は光村図書である。以上、採択することよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、議案第25号については、今種目ごとに述べた発行者の教科用図書を採択する。

以上で議案を終わる。

- (1) 旭丘・小竹地区における新たな小中一貫教育校の設置について
- (2) 令和元年度教育に関する事務の管理等に係る点検・評価について

教育長

次に、協議案件である。継続審議中の協議案件2件については、本日のところは継続とし、次回以降に協議を行いたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、そのようにさせていただく。

(1) 教育長報告

① その他

i その他

教育長

つぎに教育長報告であるが、本日は予定している案件はない。その他の報告は、何かあるか。

教育総務課長

特段ない。

教育長

それでは、以上で第15回教育委員会定例会を終了する。